全国のディベーターのみなさまへ

めざせGreat Debater

全国大会にむけての実践的アドバイス

（2019年夏版　8月20日）

HEnDA審査委員長　矢野　善郎

HEnDA審査委員長として，光栄にも様々な英語ディベート大会で審査をさせていただいております。生徒さん（そして指導者の皆様に）ディベートについてアドバイスすべきと感じていることを思いつくままに，今年も書いてみました。（2017年，2018年と，全国大会の出場者には似たような文書を配布しました。それに付け足す形です。例は，過去の年度の論題のもののままだったりしますが，お許しください）。

とりわけ大会に出場しようとするディベーターの皆様，どうかご参考にしてください。

日本各地の英語ディベートが，高校生のみなさんに素晴らしい体験をもたらすことを祈りつつ。

目次

[基本の基本①：めざせGreat Debater！ 1](#_Toc17369155)

[基本の基本②：ディベートの本質＝Clash! 2](#_Toc17369156)

[自己紹介 Self introduction 3](#_Toc17369157)

[準備時間：資料の受け渡し Handling of evidence 3](#_Toc17369158)

[試合中の相談 Conversations during the round 4](#_Toc17369159)

[試合前後・間の相談・談話 Conversations after/before the round 4](#_Toc17369160)

[立論 Constructive speeches 4](#_Toc17369161)

[エビデンス 5](#_Toc17369162)

[質疑応答 Q&As 7](#_Toc17369163)

[アタック Attack 8](#_Toc17369164)

[ディフェンス Defense 9](#_Toc17369165)

[サマリー Summary 10](#_Toc17369166)

# 基本の基本①：めざせGreat Debater！

HEnDAのモットーは，”Make Friends”ですが，それを説明するために私が作った似而非ことわざがあります：

Great Debaters Make Friends. Cheap Debaters Make Enemies.

一言で言えば「この人ともう一度ディベートしたい」，そう対戦相手に思わせることができるディベーターがGreat Debater。二度と話したくないと相手に思わせるのが，つまらないディベーター。

実社会にもごく希にではありますが「あの人とは意見が違うし，たいがい賛成はできないけれど，あの人と討論すると本当に意味がある」そう思わせることのできる，Great Debaterが時たまいます。高校生の皆様には是非，そうしたGreat Debaterに育っていただき，世の中の風通しを良くし，素晴らしい未来世界を築いて欲しいのです（少し大きく出すぎでしょうか？）。

ディベート大会は，英語能力をみがき，ディベートの技を磨く機会だけでなく，しかも人間的にもGreatに成長する機会を提供してくれるのです。

このアドバイス集もそうした観点から書かれています。単に勝つためのやり方を書いたものではありません。ディベート大会で勝ちを目指すことは悪いことではありません。しかしどうせ大会にでて頑張るなら，単にたまたま勝つことではなく，Great Debaterを目指してほしいのです。

実際の世の中でも，どれだけ頭が良くても，どれだけ弁が立っても，あいつと話すのは二度としたくないと思われるような人はいます。そうした人は，口は達者だけれども，どんどん仲間が減り，敵だけが増えていき，実際の世の中ではたいしてなにも成し遂げられません。HEnDAのディベート大会ではそうした人は育てたくありません。

# 基本の基本②：ディベートの本質＝Clash!

良いディベートかどうかを決めるのは，意見の衝突Clashであり，Clashが質的に深く，しかも適切な数の箇所で（量的に）行われたか，これに尽きると考えております。だから片方だけがどれだけ上手でも良いディベートには決してなりません。良いディベートは，Great Debaters同士が真剣にfriendlyにぶつかり合ったときにはじめて生まれます。

“Clash”という言葉は，日本語ではなじみがないかもしれません（紛らわしい言葉に，crashやcrushがありますが，それらは特にディベートで重要と言うわけではありません）。Clashには他にも色々と意味があり得ますが，ディベートで重要だというのは，意見と意見の衝突，ぶつかり合うという意味の場合です。これは悪い意味とは限らず，状況によっては，むしろ良い意味の言葉です。意見の衝突なんてないほうが良いと思っている人は，特に二つの状況を思い浮かべてください。一つは不正義が行われていて，特権者がのさばっていたり，少数者等が弾圧されたりしている状況――Clashがなければそうした不正義は永遠と続きます。二つ目は，科学――Clashがなければ，今でも人間は暗黒時代です。Clashのない世の中は，進歩の存在しない世の中です。）

ディベーターの皆さんにできるようになって欲しいことは，①意味のある論点について，②必要な限りの数のClashを，③生産的な（friendlyな）やり方で行えるようになることです。単にむやみやたらと衝突すればいいわけでなく，重要な衝突点を作り出す。そして衝突は意見だけにとどめ，決して人間関係上の衝突にならないようにすること。それがGreat Debaterです。

一見すると意見の衝突があるように見えても，単にお互いが自分の意見を繰り返しているだけなら，それは衝突ではありません。相手の意見をちゃんと理解しないで反論しようとすると，たいがいは非生産的な衝突となります。いずれにせよ，多く喋っているということと，良いディベートであることの間にはあまり関係ありません。

実はこうしたことを考えておくことは，HEnDA形式のディベートでは特に重要です。HEnDA形式は，意味のあるClashができるだけ多く起きるよう，既存の形式を見直し，一からデザインされています。

1. 論題と論題定義を事前に設定し限定した上で，両チームの議論が意味のある衝突ができるための共通の枠組みを作る。
2. 争点（AD・DA）の数を二つに絞り，つまらない議論の乱発をふせぎ，互いの議論のすれ違いを防いでいる（大きな議論をたがいに言い張るだけでなく，相手の言った論点が本当に適切なのか細部にもこだわることが特に質疑応答やアタックでは求められています）。また各争点についても標準的な証明の方法（現状分析・効果・重要性の3小論点）が呈示され，議論がかみ合いやすくなっている。
3. 立論・アタック・ディフェンス・サマリーと，スピーチの役割が明確であり，特にアタックでは相手の立論の中身に詳しく反論したり，ディフェンスではそのアタックに答えたりと，衝突が次第に深まっていくデザインになっている。
4. 質疑応答では，相手の立論やアタックについてちゃんと確認し，しかも理解を深めるようなfollow-upの質問を繰り返すことで，相手の議論を深く理解した上で議論を進めるようになっている。
5. 一人だけが上手でも勝てず，いわば陸上競技のリレーや駅伝のように，全員がバトンを受け継いで走らないといけないようになっている（良いディベートが行われるためには，この「全員」というのは，4人だけでなく，8人全員の協力が必要）

こうした設計思想を知っていると，自分の役割で何をすれば良いのかが見えやすくなるかもしれません。以下は，こうした二つの基本論をふまえ，個々のアドバイスに入りましょう。

# 自己紹介 Self introduction

本音を言うと“I am so nervous but I’ll do my best.” だけでは寂しいです。自己紹介は，そもそもGreat Debatersになるための第一歩として位置づけるべきで，もっと自分をだして良い場所です。多少は，長くても構わないです。笑いを取るも良し，まじめにいくもよし，Make-Friendsの機会にしてください。 “Thank you chairperson, honorable judges, dear audience”だけでなく，やはり “Thank you opponents”は最低欲しいですし，しかも学校名・都道府県名などをあげて相手にエールを送ると場がなごみます。

2017年の全国大会ではラップで自己紹介をして，みごとMake-Friends賞を獲得したチームもありました。各地の大会でも，相手の学校にふれながら気の利いた自己紹介をするディベーターが増えてきたのを見ました。全国大会に限らず，最近は，自己紹介の最中に互いを褒い合戦するなど，試合本体とは違う楽しい応酬がみられます。本当に嬉しいです。

HEnDAの全国大会では2018年から，Make-Friends賞も拡張されました。自己紹介で賞が決まるわけではないですが，自己紹介や他校との交流も間違いなく大会の一部です。2018年の全国大会では，たいへん個性的な学校・自己紹介が飛び出し，素晴らしい雰囲気となっていました。

特に決勝ラウンドや予選最終試合とかは，最後のラウンドになるかもしれないから，チームや先生へのThanks wordsがぜひ欲しいです。いっしょに苦楽をともにした仲間や，“Please allow us to use this occasion to convey our thanks to our splendid teacher X sensei.” とか，とくに先生が聴いているなら感謝の言葉を言う機会に使うのもまたよし（こっそり用意しておいて，先生が涙で試合を観られないように追い込むなんて，これもあり。2018年の全国大会などでは，実際にもらい泣きしている観客，目頭が熱くなっているジャッジ（私のこと）など頻出でした）

ただし，あまりに気合いが入っていて，試合時間を長くしているという批判もでてきました。あまり堅苦しく言うわけではないですが，普通の試合ならやはり長くても，一人1分，チームで合計3分程度がマックスでしょうか。ただし決勝戦や予選最終戦などは，特別なので，もっと長めでも許されるでしょう。是非，ディベート試合前の単なる形式的な儀式としてとらえず，試合がfriendlyに円滑に進むために必要な儀礼（社会学で言う相互行為儀礼interaction ritual）として盛り上げてください。

# 準備時間：資料の受け渡し Handling of evidence

　ルールを誤解のないように確認しておきますと，資料は，どの準備時間でも借りられます！　また相手の資料を借りることは悪いことでも何でもなく，より良いディベートの本質的な一部です。

ルールでは，とりわけ立論の直後の１分間の準備時間でもエビデンスや（翻訳エビデンスについては，その日本語原典）を借りるために使ってもよいです。是非活用してください。

ただ最近，相手チームが証拠資料をお願いされてから，渡すのが遅いと感じるディベーターが多すぎます。証拠資料を請求されて，すぐにわたさないのは目指すべきディベーターではありません。私が学生の頃に対戦したある関西のディベーターは，強いだけでなく誰からも尊敬されていました。フェアプレーの塊のような方で，資料は全て相手用に事前にコピーしてあり，自分のスピーチ直後に相手に渡せるように，相手にわたすコピーの順番を揃えながらスピーチしていました！

基本的に相手に原本を含め渡せるようにしておくのが最低のルール。速やかに貸せる資料を大会前にあらかじめ用意しておくのがMake-Friendsできる真に強いディベーターGreat Debatersです。資料をだししぶるのなら，二度とあいつらとはディベートしたくないという敵を作り出すことになるcheap debatersにしかなれません。相手が資料を借りに来たらいやな顔をするのは明らかにディベートの精神が分かっていません。良いディベートは，お互いの論点や証拠を細部までさらけ出さなければ実現しません。

相手にエビデンスを貸す際に協力的でなかったり，とりわけ明らかにわざとらしくもたついていたり，キビキビと動いていなかったりする卑怯なディベーターは，Best Debaterや部門別Speaker賞の資格はありません。卑怯なチームやディベーターは，Communication点を下げ，個人賞の対象として選ばれないように審査委員では意見統一していくことになります

# 試合中の相談 Conversations during the round

　ときどきがっかりするのが，スピーチ中にほかのディベーターが声を出して相談していることです。スピーチ中は基本的には筆談でいくべきで，スピーチをしている自分のチームのメンバーに，ジャッジに聞こえない小さな声でアドバイスすること以外はルールで禁止されています。

スピーチをしていない人同士の会話は厳禁です。自分のチームのスピーチ中であっても禁止です。ましてや相手チームのスピーチ中の筆談以外の相談は，ディベートを妨害する反則であるだけでなく，ディベートを通して学んで欲しい，議論を真摯に聞くという精神に違反します。絶対にやめてください。

# 試合前後・間の相談・談話 Conversations after/before the round

　大会のあいまには，とりわけ予選試合前後に案外時間があります。単にチームメートと試合の準備をするだけでなく，是非，ジャッジや，同じディベートで苦楽をともにしている他校の友達たちとの会話を楽しんでください。それも大会の目的の一つです

ただし，予選後，決勝ラウンド以降は，スケジュールがタイトです。勝ったチームは，次の試合会場にまず移動してから相談してください。大会が遅れると帰宅が困難になる人が続出します。

# 立論 Constructive speeches

論担当者向けのアドバイスです。

　読み上げる際にも是非，準備の際に工夫をして下さい（これは立論担当者だけでないかも）。色つきマーカーで，各文でイントネーションを高くする言葉を塗っておくと良いです。例えば，以下の引用なら

Dutch Journalist and writer Leo Enthoven writes in 2018 that “death tourism” is occurring [quote]

Three Swiss organisations assist deathly ill foreigners to die. During the period 1998-2017 one of these, Dignitas, provided lethal doses of barbiturates to 2550 individuals to enable them to commit suicide. Of these 173 were Swiss nationals. The remaining 2377 persons (93%) had travelled to Zurich from 49 different countries. [unquote]

　強調ポイントとなる数字などは高めの声（イントネーション）で，場合によっては繰り返して読んだりすることもありです。蛍光マーカーが入っていない立論原稿を読むと，平板な早読みであることが多く，たいへん聴き取りにくいです。まわりの先生などに助言をもらって，マーカーをつけておきましょう（あとアクセントのある音節に，赤ペンなどでマークするのも組み合わせるとなお良い）

スピードは一分１５０語を超えるのは反則です。立論の最大語数（600語）に注意しましょう。しかも立論の冒頭はジャッジの耳が，あなたの英語に慣れていないから，かならずスローにスタートしてください。

　特に数字を読むときにはゆっくりと。重要な数字は繰り返してもいい。たとえば税収が27,245,570,000円という時には，適当なところで丸めも必要（丸めとは適当な桁で四捨五入すること。around 27.2 trillion yenで十分ですね。もちろん桁数が少ないときは，一桁まで正確に読み上げることでレトリック的に正確性をアピールする必要がありますので，その際には丸めない）

　質問にどれだけ上手に答えられるかは，実際には試合を左右するくらい重要です。　事前に来そうな質問を予想しておき，Constructive Speakerは単に原稿を読む人ではない，ということを見せつけてください。

あと立論の内容については，エビデンスのところをよく見てください。よい立論は，短いエビデンスをたくさんつなげ，早く読むことでは決してありません。むしろ本当の説得力は，信頼のおけるエビデンスを専門家の肩書きauthorityも含め，ちゃんと引用することで生まれます。

　全国大会ではConstructive speechも含め，部門別スピーカー賞が創設されました。過去には，他のスピーチ担当者が，Best Debaterをとっていたのに対し，最初の立論スピーチはどうしても縁の下の力持ちとして個人賞は取りにくかったですが，これからは違います。各部門，とりわけ立論担当者は，是非初代の個人賞Most Excellent Speakerをめざしてください（賞は，メインジャッジの推薦が最も多かったSpeakerに与えられます）。

# エビデンス

　HEnDAのディベートでは，証拠（evidence）が重要視されます。証拠を用いて上手にディベートができることは，現代社会で活躍する際に必須の技術です。大学等で学ぶあらゆる科学は，証拠なしには成立しません。つまり物理・化学・生物学・医学などの自然科学だけでなく，社会科学，歴史学などの人文学，たとえば文学研究でも，それぞれの分野にふさわしい証拠が必要になります。証拠と取り組む練習は，大学にて学ぶ科学・学問の基礎となります。また私たちの社会を支える現代の裁判制度や行政などが，証拠を用いないで運営されたら大変なことになります。もちろん証拠に基づいて経営しない会社は，信頼できませんし，生き残りにくいです。

しかしもう一つ重要なことがあります。私たちは，証拠に基づいて議論するだけでなく，証拠を誠実に取り扱うことも学ばなくてはなりません。証拠っぽいものがあれば，全てごまかせるという人間が残念ながら最近増えています。証拠をイジって，○○細胞という夢の発見をしたと主張する科学者。Fakeや嘘を振りかざし，写真をいじってまで自分は人気があると主張する政治屋。空気を汚さないと嘘のデータで自動車を売ろうとするメーカーや，会計についての数値をいじって周囲を欺く経営者。日本でも無実の人間を証拠を改ざんして有罪にしようとした検察官がいました。世界の各地で，証拠をでっちあげて国家によるおぞましい犯罪を隠蔽する独裁者がいまだにいる。

証拠を改ざんすることは，民主主義・法の支配・科学を基本とする現代社会では許されません。ディベート大会でも全く一緒です。自分の議論を有利にするために，エビデンスを捏造・歪曲するという行為は社会でもディベートでも犯罪です。ディベートでは，事実や統計や専門家の意見を自分に有利なようにいじること，つまり

証拠のねつ造や歪曲は，最も卑劣な反則の一つです

　HEnDAのルールでは，ジャッジや各校が，相手校の使用するエビデンスについて厳しくチェックできます。

仮に意図的ではなかったとしても，自分たちのチームに有利になるように資料の原文を変えて，引用した場合には，反則となります。当然，違反者には，反則負けにとどまらない，厳しい罰則（来年度も出場停止など）があり得ます。特に決勝ラウンド以降はビデオで撮影します。試合後・場合によっては大会後であっても，反則負け，場合によっては優勝なども剥奪されるというような悲しく・厳しいことが起きてしまうかもしれません。

　ですからルール3.1.2.1，3.1.3　エビデンス　をよく読み，全てのエビデンスを先生とチェックし，一点の曇りもない状態にしてください。

　議論の前提となる前提条件（コンテクスト）を隠すのも歪曲の一種です。

　自分の議論に有利なように数字が変えられていたり，年号を隠したり，たとえば条件などを示した修飾語をはずすことで統計の意味がかわったりした場合は，たとえ単純ミスであったとしても，証拠の捏造・歪曲とみなします。特に日本語の文章を英訳して使っている場合にこうした反則は多々生じます。もう一度，数字の引用，専門家の発言，図表などの数字のチェックと，原文との照らし合わせをしてください。

　照らし合わせできない，原文が見つからないなら，証拠を使うのを諦めて，単に証拠ではない意見として発表してください。それは議論としては弱いですが，まだ正直でましです。

　各地で気になった例などを，幾つか見てみましょう

　反則となりうる例１　（根拠の隠蔽）

According to XX, “10 types of cancers will be cured by 2020”

チェックすると，証拠の原文からの引用が，かなりいい加減でした。2010年頃に，なんかのシンクタンクが未来予測をしただけ，しかも根拠もなにもあげられていないのを隠している。反則にならないためには，単なる未来予測であることは隠してはいけません。

　反則となりうる例２　（因果関係）

According to XXX “suicides increased in the Netherlands after the introduction of euthanasia in 2002”

実際には，この引用の原文は，単にある年に自殺が増えたということを示しているだけで，それが安楽死による物だとは全く書いていません（自殺の増減は，単身者の増加・失業の増加など様々な理由で起きるはずなのが隠されている）。反則にならないためには，せめて正直に

According to XXX quote “suicides increased in the Netherlands in 2003” unquote. From this, we can say that euthanasia increases suicides.

と，引用と自分たちの結論を分ける（ただし実際には，弱い議論です。相手は，もちろん自殺が安楽死によって増えたと証明していないことをアタックすべき）

　反則となりうる例３　重要情報・年号の隠蔽

According to XX “In the Netherlands, an old woman was forced to take euthanasia. She had lethal dose injected, even though she was screaming she didn’t want to die.”

安楽死法で怖いことになると議論したいのなら，事件が起きた年号は隠してはいけません。オランダで安楽死の法制が実施されたのが，2002年。その後改正も行われています。どの時点でこの事件が起きたのか，あるいはこの事件がどのように処罰されたのか。こうした条件を隠して重大事件としての側面だけを伝えるのは反則となります。

反則となる例４　（素人計算）

数値を自分たちで計算をした場合，どこまでが自分の計算でどこが引用かを必ず区別してスピーチしてください。もし以下のような発言をしたとしましょう。

According to the MOHW in 2017, total medical cost of terminal patients will be 88 trillion yen.

この88兆円という計算をしたのが実際に，厚生労働省であるなら反則ではないです（ただしその場合も，こんなに短く引用するのでなく，どのようなコストが含まれているのかを全て明示すべきでしょう）。しかし，もし実際にはこの出典が実際には「患者の一人頭の社会保障からの支出」としか言っておらず，そこから自分たちが単純かけ算をして総費用を計算し，原文の資料の条件やその計算をしたのが自分たちだというのを隠して引用したとしたら，反則です。（統計計算は難しく，その計算を専門家がやったのか，高校生がやったのかで信頼度が全然違います）

許される例（計算をしたのが自分たちだと明示している）

According to the XXXX in 20XX, quote “the average amount of public social cost to support terminal patients is xx,xxx”, unquote. According to YYY in 20YY, quote the number of terminal cancer patients is yyyy thousand, unquote. So, we simply multiplied the number and the number is X trillion yen.

反則になることを避けるための二つの大原則

①どこからどこまでが引用かを明示するために，実際に引用した箇所はquoteで開始し,引用終了後unquoteという言葉でおえるべきです。

②引用は単に結論だけでなく，年号や具体的な状況なども含め，正確に長めに引用する。

# 質疑応答 Q&As

　質疑応答で，近年，不思議な質問の終わり方がはやっています（やらないチームも増えていますが，2017年からずっと指摘しているのですが，残念ながらまだ見受けられます）。あまり証拠がないと分かっているようなポイントで例えば，質問者がこういうのです

Q: “Do you have evidence?”

A: “Yes. We didn’t read it but we do have evidence”

Q: “OK Please, show me (the evidence) later.”

相手の議論で証拠がなかったときに，わざわざ「証拠を後で見せて」というやりとりは端的にいって質問者が議論的にも時間的にも損をします。議論的に損というのは，質問することであとで相手に証拠提出のチャンスをあげているようなものです。またジャッジもフラストレーションがたまります（笑）…　試合に出ない資料はジャッジには関係ないので，ディベーターだけやりとりしているって仲間はずれです！

時間的に損というのは，証拠は質疑で言わなくても借りられるからです（立論後の質疑なら，直後の一分間で借りて，それをみながら質疑をやっても良いくらいです）。それなら次の質問に行くべきでしょう。また，わざわざ質問時間を使って相手が引用していない証拠を調べるなら，実際に引用したものを調べた方がとくです。

相手が証拠なしに発言したことをとがめるのはもちろん良い質問です。質問形式なら，例えば次のようなやり方ではどうでしょう

Q: “On AD 1 b) Effect you said that the plan increases xxx. Did you show any evidence on this point?”

A: “No. But we do have evidence.”

Q: “OK. So you admit you haven’t shown any evidence in the AD x effect. Next question. On AD 1 c) Importance…”

つまりエビデンスがあるなしを聞くのではなく，エビデンスが読まれていないことをジャッジに印象づけるべきなのです。

　また質疑応答の醍醐味は，なんといってもfollow up questionです。単に確認するだけでなく，相手の回答の中身にあわせて，さらに深いところまで質問していく。そうした質疑をみたいです。

Q: Your AD effect argues that A.I. will be introduced to compensate for labor shortage caused by short working hours. [Is this] Right? （議論の確認）

A: Yes

Q: Where did you show that, without the plan, A.I. won’t be introduced.（プランなしでは何も起きないかどうか，固有性があるかどうかの質問）

A: In A) present situation evidence.

Q: But in A) evidence you only said that just 5% of the companies use A.I. now. But where does this prove that A.I. won’t be used in the future *without* the plan? （相手のあげるエビデンスが述べていることは欠陥があることの確認）

A: … We clearly showed that it is not used now.

Q: Thank you. Next question…

こうしたやりとりをした後，引きつづきAttackで相手のpresent situationを例えば「プランなしで現状が続いても結局AI化が進む」ということを事実で示すと，プランがなかったとしてもADが得られるのではという（ユニークネスの）攻撃がたいへん強力に行えることになります。

# アタック Attack

　アタックの人へのアドバイスは，一言で言うならOne-line attacksはやらないでほしいということです。ときどき見かけるのは，事前に書いた一行だけのアタックをそれぞれ別のアタックとして数えて，I have 12 attacksなどと読み上げるというアタックです。これは正直申しますと，数だけ多いけど，ほとんど有効でないアタックばかりなのでやめたほうがよいです。重要なのは，数よりも実際にひびくアタックです。One-line attacksというのは例えばこういうのです

Number 6: No effect. The effect of morphine is not clear, so no effect

Number 7: No importance. How many people will be saved, it is not clear.

アタックとしては，これではジャッジに何が相手の議論の問題なのか理由が伝わりません。やはり最低でも次のような三つの要素があると強いアタックになります

Number 6: On b) effect. They said morphine will take away pain.

[第１要素，反論点を具体的に指示：どこのどのような議論に反論するのか]

But No proof. This is just speculation without evidence. Actually according to xxx in 2017, morphine rather causes different sufferings: quote … unquote

[第2要素，相手の議論の欠陥：具体的にどんな欠陥があるのか]

Unless there is clear evidence that morphine over all takes away unbearable sufferings there is no DA.

[第3要素，議論の証明責任・小括。相手は具体的に何を証明すべきなのか
そしてそれが証明されないとジャッジはどう判定すべきなのか。]

アタックの重要な仕事は，相手が証明責任Burden of Proofをみたしていないことを指摘することです。つまり，「ADならこうしたことを証明していないといけないが，こうしたことまでしか相手は言っていない」という形になるべきなのです。そして望ましくは，このアタックの帰結としてどのようにAD・DAを評価すべきかについても述べるべきでしょう。

　アタックは3分なので，ルール上最大450ワードになります。一つのアタックを丁寧にするなら60ワードは最低使うはずです。アタックは合計6，7になりますが，無理矢理10個以上に増やして，ジャッジにほとんど届いていないよりはるかにましです。

　近年は，原則として論題解釈がしっかりと定義されており，あまりプランの余地がないので，起きておりませんが，ときどきアタックスピーカーが，plan attackと述べることがあります。これはルール上反則であるだけでなく，実際には反論としても意味ないからやめてください。アタックが攻撃すべきなのはプランではなく，否定側ならAD，肯定側ならDAです。

　もちろん肯定チームが，論題定義に違反するようなプランを出している場合は，話が別ですアタックでも良いですし，否定立論などで指摘するのも良いでしょう。

# ディフェンス Defense

　ディフェンスの仕事は，自分のチームのADやDAを残すことです。

　勘違いしてほしくないのは，アタックに反論するのはその仕事の半分くらいに過ぎないということです。

もちろんアタックに一つ一つ反論することは大変重要で，一つでも反論を漏らすと，たいがいADやDAを残すことはできません。が，ディフェンスが終わった時には，単に反論して力尽きるだけでなく，ジャッジが結果として，ああこのADやDAは確かにあると納得させるのが本当のディフェンスの仕事です。

　具体的には，ADやDAは，

a) present situation （現状と比較してuniqueな問題か）

b) effect（プランによって問題が起きるか）

c) importance（問題は重要か。その価値はなにか）

の三点，全てが証明されていなければなりません。アタックは，そのどれか一つでも確実に切ることができるならば，議論全体をだめにできますが，ディフェンスは大変でその三つとも守らないといけないのです。

ですからディフェンスの間に，相手が攻撃しなかった部分も含め，三つとも守られている部分があるということをアピールしてはじめてディフェンスは完結します。いうまでもなく相手がアタックしなかったADやDAも，そのprobabilityやimportanceを強くアピールするのもお忘れなく。

　例えば，自分たちのADで，労働時間を減らすと，労働者の健康が良くなると議論したとしましょう。アタックは二つあったとしましょう。その場合，アタックに反論するだけでなく，以下のようにディフェンスしてみてはどうでしょう

AD1 Workers health issues

On their 1st attack, she said the current reform makes things OK. But their evidence is just an author’s statement that shows no reliable predictions.

（相手の反論の核となる証拠の信憑性を攻撃）

However, as we have shown in the XXX evidence, actually, the present regime reform allows employees to overwork more than 720 hours a year. So, current situation still will kill workers.

（できるだけ立論の証拠などを利用して簡潔に反論）

There is no other attack on a), They granted that currently, more than 600 workers die from overwork related health issues.

（反論以外でpresent situationを強化）

On their 2nd attack, they said overwork does not directly link to workers’ health.

However, this evidence doesn’t show any concrete data, so it’s totally unreliable.

（単に相手の証拠と違う証拠を出すのでなく，相手の反論の核となる証拠の信憑性は攻撃したい）

They granted that our E.U. evidence that, in the countries that have less than 48 hours overwork, workers health improved in average lessening one third of the damage.

So clearly, the effect of our plan to reduce workers’ casualties is clear.

（できるだけ立論の証拠などを利用して，効果を説得的に強調）

On c) importance, there is no attack. As we said, please remember that saving workers is the most important issue in this debate.

（重要性を再度強調。相手が攻撃しなければ，むしろ強調！）

Their DAs talk just about some economic issues.

Economic growth means nothing if it is built on the sacrifice of overworked workers.

（相手の重要性と比較する，攻めのディフェンス！）

# サマリー Summary

　以前と比べるとかなり改善されてきましたが，まだ不思議な考えが一部で広まっているようです。サマリーは全体の比較comparisonだけをするところで，細かい議論は一切ふれるべきでない。さらにディベーターのなかに，アタックについては，他のチームメートが既に述べたことなので，サマリーでは繰り返す必要はないと思っていた，と試合後に感想を述べた方もいました。

サマリーについて，それほどの間違った認識はありません！

　サマリーは，大きく分けて二つ，ミクロ（micro微視――個別の争点AD/DA内部の細かい衝突に決着をつける）と，マクロ（macro巨視――争点AD/DA同士の比較）の重要な仕事があります。実際には，ミクロの仕事は，肯定・否定の争点について二つやらないといけないので，3つの仕事があるというべきでしょう。その3つ全部がサマリーの仕事です。

試合のフォーマットとしては，立論のADやDAに，まずアタックがあって，ディフェンスがあります。ディフェンスは，必ずしもアタックを十分に返答しているわけではありません。が，ジャッジはもしかしたら十分だと考えてしまうかもしれません。そこで重要なのは返答が十分でない場合，特に相手のDA（やAD）の根幹に関わるアタックについてサマリーで強調して，相手のADやDAの証明の足らないところに最後のとどめをさすことです。

他方，自分のAD（やDA）についてのミクロな確定は，直前に自チームのディフェンスがあるわけですから，優先順位は落ちます。が，ディフェンスが相手への反論に終始しすぎた際などは，どこがAD（やDA）として残っているのかは，確定させる形でジャッジに伝える必要があります（良いディフェンスのあとなら，この仕事はかなり少なくてもかまいません）。

こうしてミクロの争点の確定をした後で，ADとDAのどちらが多いかというマクロの比較をすることになります。いきなり “In this debate, there are two clash points” 等と言って，マクロの比較に入り，アタック前の立論の段階のADやDAで大げさな比較をしているサマリーは，相手チームだけでなく，自チームのアタックやディフェンスも無視しているので，まったくサマリーとしては評価できません。

まとめると，サマリーでは，①相手チームのDA（やAD）のミクロの欠陥の指摘から始めるのがおすすめです。確認ですが，全てのアタックをなぞる必要はありません。相手の議論のa) present situation （現状と比較してuniqueな問題か），b) effect（プランによって問題が起きるか），c) importance（問題は重要か。その価値はなにか）のどれか一つでも決定的に欠けているなら，議論は成立しません。自チームのアタックと準備時間に相談し，一番効果的なアタックで相手が反論できなかったところを幾つか選ぶと良いでしょう。

次に，②自チームのAD（やDA）が，3要素全てが揃っているというミクロの確認を行います。必ずしも，両方のAD（やDA）を守る必要はありません。どちらかでも三要素全てが残っていることをアピールすることが重要です。

そして最後に③ADとDAの比較をすることになるのです。ここでは，大げさなレトリックでなく，相手のDAやアタックを踏まえてもなおもADが上回ると言う誠実なスピーチが，本当は期待したいところです。

なおサマリーでは，当然のことながら新しいアタックもディフェンスも出来ません。

相手のDA（やAD）についてミクロの確定をする際には，①自チームのアタックで述べたポイントで，相手チームが返答しなかったポイントを指摘すること，②相手がディフェンスで反論しているが不十分な反論だった場合がありえます。特に②の場合は，場合によっては証拠を付け足すことも可能です。たとえば安楽死ディベートだとして，

A-Con.: 末期癌は耐えがたい身体的苦痛をもたらす（証拠あり）

N-Att.: 現状ではほとんどの末期癌の痛みは除去できる（証拠あり）

A-Def.: 末期癌の痛みは，骨癌などでは除去し得ない（証拠あり）

　こうした状況なら，証拠付きでサマリーで再反論するのは，ルールで許されています。例えば，否定サマリーは，否定アタックの議論に付け足す形で，「最近は骨癌の痛みを取る研究が進んでおり，何年後には実用化されうる」などと証拠付で反論することは許されています。つまり特定の争点について，証拠と証拠を比較するような証拠などは，サマリーでも出せます。しかし，原則として，以前に出せる機会があったのに新しい証拠を出すのは，許されません。

サマリーでは，相手のアタックに対し，自分のチームのディフェンスが反論できなかった場合は，基本的にはそれを受け入れて，まとめることしかできません。仮に相手のアタックに自分のディフェンスが，例えばAD2については何も返答しなかったとしましょう。その場合サマリーは，相手のアタックへの直接の反論は許されません。唯一出来ることは，アタックを受け入れたとしても，ここのAD2は立論で述べたように，この点だけはまだ残っているという間接的な立論の参照だけです（しかし相手のアタックがよほどOne-line Attacksばかりの時以外は，たいがいは上手くいかないでしょう）。

　以上，ディベートでステップ・アップをする際のアドバイスをまとめてみました。

　参考になれば幸いです。

もっとも，一番重要なのは，細かいテクニックよりも，相手やジャッジを尊重し，参加者全員で協力してよいディベートを作り上げようとするMake Friends精神です！

勝ち負けはともかく，この人たちと，またディベートしてみたいと思われるディベーターをめざして下さい。

Make Friends!

HEnDA審査委員長　矢野善郎